

# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和  
新潟県山岳協会  
新潟市南区鷺ノ木新田1049  
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一  
長岡市高畑町610-10  
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集  
委員会代表 浅野亘寛  
TEL 0258-52-3998

## 第62回国民体育大会山岳競技会 新潟県第二次予選会―最後の縦走競技予選会―

渡邊 正之(副会長 強化総括)

5月20日(日)上越市安塚区キュービットバレーで、縦走競技の県予選会が行われた。縦走競技と銘打って予選会が行われるのは、これが最後である。

国体山岳競技の縦走種目が、今年度の第62回秋田国体をもって廃止される。6年前の宮城国体までは、縦走・踏査・登攀と3種目があつたが、翌年の高知国体で踏査競技がなくなり、登攀はクライミングとなり、登攀はクライミングと名前を変えて、成年と少年の両方に導入された。それ以前は、成年は3種目だったが、少年に登攀種目がなくて、縦走と踏査の2種目で成績を競っていた。このときから少年の部にもクライミング競技が採用されて、成年と少年の種目のずれがなくなった。

来年度の第63回大分国体からはクライミング競技だけに限り、その内容はリード競技とボルダリング競技の2種目となった。

当日は朝から雨となった。

のであろう、結果は、杞憂に終わる。

私自身はゴール地点で配置に付いたが、傘を差すことは最初から諦めていた。

無線機も車の中に手放さざるを得ない状況で、選手通過情報のないまま、急斜面下から1番先頭の選手が現れた。

成年男子樋口選手である。すぐ後に秋山選手が迫っていたが、1番目の選手はゴールを見事駆け抜けた。

2番手の選手はゴール目前にして歩き出した。

気落ちした様子で、歩いてゴールラインを踏んだ。後で聞いた話では、秋山選手がゴール地点を正確につかんでお

ず、ラストスパートに失敗があつたようである。ゴール地点の建物とその手前の建物を混同したらしい。スキー場ゲレンデの登りにかかる2番目のチェックポイントでは、先頭に行く樋口選手よりそれを追いかける2番手秋山選手の姿にしゃくしゃくの余裕が見られたようだ。晴れていれば、建物がふたつ見えて見間違いがなかったはずだったろうに。ゴールでは計時をして、選手に順位札を渡す。ザックを計量して、車に積みこむ。三々五々といった感じで選手がゴールして、最後の縦走予選会が無事終わった。

### 楽しかった山スキー

― 守門岳編 ―

鈴木 勝利(新潟山岳会)

### ◆日程

2007年 3月3日夜発〜4日

### ◆メンバー(6名)

L: 鈴木勝利  
M: 阿部信一 西川敏正  
恩田俊則 白倉穂高

渡辺康博

### ◆4日コースタイム(鈴木タ

イム)

除雪終点P発07:25/長峰08:55/保久礼小屋着09:20/同発09:50/キビタキ小屋10:25/大岳着11:25/大岳発滑走開始12:00/キビタキ小屋着12:20/昼食宴会/同発13:45/保久礼小屋13:55/長峰14:35/除雪終点P着15:05/※全員到着16:05終了

記録 除雪終点は例年と同じ場所である。川側に小屋があり、近くに高い杉の木がある所で、橋から約300m手

前の所。雪量は1mくらいで、例年の半分から3分の1くらいだろうか。

予報では晴れマークひとつなのに曇り空で、何だか怪しげな天気の中を出発。橋を渡って左（北方向）にしばらく行くと、雪が融けて急に低くなっているところや、急斜面で雪が切れているところなどがあり慎重に登る。北東方向に尾根を登ってゆくと林道らしき平らなところに出る。全員到着を待って平らなところを左に100mほど進み、再び北東方向に尾根を登り長峰に着く。ここからは平坦な林道に沿って進み、最後は緩やかに下って保久礼小屋に着く。小屋は下から殆ど出ている状態で、雪の量は例年より3mくらい少ないようだ。康さん（渡辺）のスキートの調子が悪い。ビンディングのビスがゆるんでガタツクらしい。ネジ穴に紙を詰めて締め直したが不安そう。晋平ちゃんからただでせしめた靴の調子は未だ悪くないらしい。思ちゃんは靴擦れで足のテープ貼りに余念が無い。いよいよ本ちゃんの登りにかかる。キビタキ小屋も丸見えだ。気持ちのよいブナ林を抜けて大岳に着き、

西川さんの「オツカレ」に迎えられる。周りはガスで何にも見えない。西川さんはさすがK2をめざしている人だけに体力・技術ともに抜群だ。ワインを一口飲み、つまみのチーズを探すがザックの中に見当たらない。食料袋一式を忘れてきたことに始めて気がつく。「反省反省」。西川さんからパンをもらって食べる。ほどなく着いた阿部信の、「このガスではつまらぬからガスの無いところまで下りるか？」の意見に賛成した。思ちゃんがまだ来ないが、単純なルートなので下りに出会うだろうと思ひ滑り出す。すぐに思ちゃんと出会ったので、「頂上まで行ってくるか？」と聞いたが、「ガスではつまらぬので・・・」とのことと一緒に滑り出す。重たい雪に太腿をパンパンに腫らしながらキビタキ小屋に着く。それぞれ好みの酒とつまみで待望の昼食宴会が始まる。みんなから食べ物や飲み物を少しずつ恵んでらって腹一杯になる。疲れたのでザックを背もたれに昼寝をした。この頃から陽が射して、暖ったかくて気持ちいい至福のひと時であった。「カッちゃんそろそろ行くぞ・・・」

の阿部信の声で目がさめる。眩しいのでサングラスをかけて滑走。ここからは雪も滑りやすくなり、保久礼小屋まではブナの巨木の間を縫って滑り、短い山スキーの素晴らしさを存分に楽しむことができた。保久礼小屋からの林道ひと登りはキツイ、汗ダラダラ。平らなところまで登り、みんな揃って真っ白な守門岳をバックに記念撮影をした。長峰から下は、鈴木・西川さんの2人は登ってきた尾根を、阿部信・思ちゃん・穂高（白倉）さん・康さんの4人は林道を、二手に分かれて滑ることとなった。尾根は雪が少ないため木立が高く、間隔も狭いので快適な滑りとはいえない。鈴木が先行して滑り、途中振り返って見たが西川さんの姿が見えない。西川さんは技術・体力ともに抜群なので心配しないでそのまま滑走を続ける。無事除雪終点Pについて後ろを見渡したが西川さんの姿は見えない。残ったワインを飲み終わった頃、30分遅れで西川さんが到着。

西川さんは途中の林道に出たところから、尾根を下らずにそのまま林道を下ろうと思っただけで下り始めたところ、引き返してきた2人パーティに出会ったとのこと。2人は林道を下ってみたが傾斜が緩すぎてスキーが滑らない上、先が長そうなので途中で止めて引き返して来たらしい。西川さんもそこで引き返して尾根を滑ってきたとのこと。その後30分遅れで穂高さん・阿部信・思ちゃんの3人が到着したが、康さんは少し遅れているようだ。4人は長峰から林道をしばらく滑って行ったが、傾斜が緩くてスキーが滑らなかつたり登りになつたりした挙句、土砂崩れで行く手を阻まれ、やむを得ず途中の斜面から下って林道の橋のところまで出たようだ。所々雪が切れて難儀をしたらしい。暫く待っても康さんが来ない。途中まで見に行こうと思っただけで歩き始めたところ姿が見えた。康さんは、心配したビンディングのネジが完全にすっぽ抜けたためスキーを担いできたとのことだ。何時もの靴擦れのため裸足で歩いているのでは？と冗談を言っていたが、靴擦れの方はそれほどでもなかったようだ。ただなら我慢できる程度だったらしい？・・・。

空はすっかり晴れあがり、全員無事に揃ったところでSLランドへ直行。入湯料500円、身体のお芯まで温まるいい湯でした。

☆追記 康さんのスキーはゲレンデ用で、中が中空になっているためネジの固定が弱く、歩いているうちに穴が壊れてネジが抜けたのだと思う。

スキーはゲレンデ用でも良いが、山スキー用に使う場合は、ネジの固定部分に木が入っている物を選びたい。外観からは分らないし、運動具店の店員でも知らない人が多いので、よく確認してもらってから買うようにしたい。

---

**腰痛・肩こり・冷え・筋力低下**

**細菌衛生・さい帯血保管 等**

**総合健康医療器機販売**

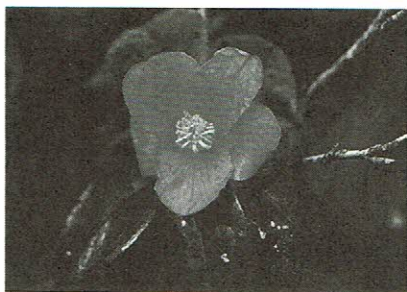
**メディカル ユングフラウ**

電話 090-3173-0540

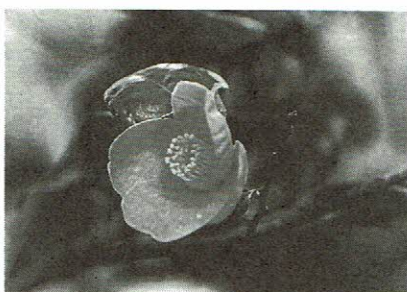
越後の山に見られる 変種植物

むささび会 加藤 明文

◆ツバキ属 Camellia  
⑬ ユキツバキ



ユキツバキ  
八石山 (5月8日)



母種 ヤブツバキ  
西方ヶ岳 (6月5日)

日本海側の多雪地帯に多く産し、雪に押されて枝が接地するとそこから根が出るものもある株立ちで変種名は V, decumbens で横臥したの意、で花卉は平に平開する。

母種は本州以西に展開するヤブツバキで種名 Japonica 「日本のツバキ」の意で花は半開きに咲き平開はせず幹立ちとなる。

本県にはこの双方の中間型のものも多く「ユキツバキ」といい、積もる雪の量でその高さがきまる。

『やぶ道』⑫ レベル

杉本 敏



昭和47年、ニューギニアのウイルヘルム山(45008m)へ16名で出掛けた。まだ

本国が独立する前である。無事登頂し、帰りは山本五十六

が大戦の指揮をとった司令部など見学した。赤錆びた戦車、

連射砲などが放置されたままであり、海岸には船が座礁状態である。悲惨な状態であつた。

楽しい面もあった。そこは赤道直下。暑い国の人

はベニスケース着装で街を歩いていた。女性は胸を出し、腰の前

後を相撲取りのさがりのようなもので覆っているだけ。日本

の一人は目を輝かしていた。明治時代、英国人女性エザ

ベラバードが、東京から東北、北海道へと徒歩で旅をした記録を『東方見聞録』に書いて

梅雨時に日光の奥地を通つたら、簡単な小屋掛け住まいで、女性は腰巻一枚で生活しており、衛生状態は非常に悪いとある。またある地方は、人間が住む環境状態でないと、当時の描写が生々しくある。

時代差が有るのは仕方ない。同一時代に地域差が生じるのは寂しい。

登山で技量の差があることは各人も承知して出掛けているのだらう。自分の技量の度

合いがどのレベルであり、どこからレッドラインになるのか、限度を知ること

も大事である。雪上歩行技術が足りない。岩場の恐怖心具合。高度と担架量の割合。天気図の解

読力。読図力から行程の疲労度合いの推測。などなど知っておく要素はたくさんある。

時期と天候と標高を勘案し推測しなければ、無理と思わ

れる山を登山して事故を起こすケースが多い。冒険の世界は危険がつきまとう事を承知しておく必要がある。

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

日本交通大空会提携旅行業者JTB(株)JTB(株) 日本旅行業協会会員  
本社 新潟県長岡市東町1丁目3番5号

http://www.uks.co.jp

- 長岡営業所
- 新潟営業所

〒940-0084 長岡市東町1丁目3番5号  
一級旅行業取扱主任者 森 隆樹

☎ (0258)33-7123  
〒950-0818 新潟県長岡市山3丁目2番11号  
一級旅行業取扱主任者 中島 豊



JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h\_mitani388@jtb.jp

◎賛助会員入会 ご入金の

お礼

次の皆様から、ご入会、ご入金を頂きましたので、ご報告させていただきます。

\*5月21日～6月30日現在の

ご入会、ご入金状況です。

矢沢建三(悠峰山の会)、北

村 猛(交友会)、山崎幸和

(越後吉田山岳会)、小林由

夫(日本山岳会越後支部)、

小野 健(さわがに山岳会)、

平井敏公(高田ハイキングク

ラブ)、森 庄一(長岡ハイキ

ングクラブ)、平田大六(関川

村山の会)、大倉 証(柏崎

山岳会)、坂井 厚(映彩山岳会)(敬称略、順不同)

新潟県山岳協会

会 長 遠藤家之進正和

理事長 森 庄一

総務委員長 七沢 恭四郎

◎「新山協ニュース」を直

接お届けします。

ご希望の方は、郵便番号、

住所、氏名、電話番号、所属

団体名を明記の上、50円切手

24枚(1年分)を添えて左記

までお申し込み下さい。

【申し込み先】

〒940-0221

長岡市金町2-2-17

浅野巨寛方(新潟県山岳協会会報編集委員会)

編集ことうき

▲山道を登りきると、やや

広い道の端に繋がれた犬が、

座ったままこちらを見ている。

小柄だが耳がピンと立った立

派な柴犬だ。大好きな私はしゃ

がみこんでコンタクトをとり

始める。話し声を聞きつけた

のか枝や笹のこすれあう音が

して年配のご婦人が現れた。

餅で作ったシャレタ胴袋を腰

に巻いている。中を見せて貰

日本山岳会越後支部設立60周年の記念の想いをこめて「越後山岳11号」が発刊された。1948年2月に「越後山岳」が創刊されて以来、ほぼ5年毎に版を重ね、今回の11号の刊行となった。越後支部60年の歴史のなかで創世記のこと、会員のこと、事業実績など貴重な調査資料とともに重要な文献も目をひく。出版構想から3年余、資料の収集、編集、執筆に携わったスタッフの労を讃えたい一冊となっている。

越後山岳 -第11号が発刊される-



『越後山岳』  
-第11号-

☆体 裁 B6版 503頁  
☆頒 価 2,900円(送料込み)  
☆申込問合せ先

日本山岳会越後支部事務局 横山 征平  
〒959-3265 関川村下関1100-1  
TEL/FAX 0254-64-0469

(会報編集 浅野)

うと、形の良い根曲がり筍が10本ほど見えた。今日の収穫はこれで良いのだそう。聞けばこのあたりは代々の持山なのだそう。都会の匂いも感じさせ、若い時はかくや、と想像できるご婦人は近年の山菜などの乱獲を嘆いて、山の物はアクが強いがゆえに野菜にはなりきれなくて、山菜なのだと言っていた。

▲時期の遅い、目残しの木の芽を摘むがすぐ片手にいっぱいになる。塩を振り入れた熱湯でサツト茹で、冷水から小鉢に移す。今時分の木の芽は苦味がつよい。ウズラの卵では上品すぎるから地卵を割り入れ、使い勝手の良い地元の醤油でさっと食べる。香気と爽快な苦味が口中いっぱいに広がる。

▲緑が深くなった木立のヤマボウシが清々しい。崑崙支脈の未踏峰、探査の旅がまもなく始まる。ツアイダムの砂漠は熱砂のなかで陽炎が立ち昇っているのだろうか。可西里の高地には遙か彼方の聖山カイルスから『千の風』の吹き渡っているにちがいない。

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング  
テレマーク&山スキー



パーマーク  
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)  
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

http://www.parrmark.co.jp